

みやびの会 第10回 記念朗読会

うた ことば

百年の時とともに



仙台市青年文化センター エッグホール

2010年10月24日(日) 10:30から、14:00から

ごあいさつ

みやびの会 第10回記念朗読会「うた・ことば 百年の時とともに」にご参加くださ
いまして、ありがとうございます。

今から100年前の明治43年(1910)、日清・日露の両戦役を経て、近隣アジア諸国を
踏み台に大国化を目指す日本近代の歩みの矛盾と問題点は次第に明らかになってきま
す。大逆事件(幸徳秋水事件)と韓国併合は、それを示す象徴的な大事です。

100年の時を刻んで、樋口一葉の情熱、『遠野物語』と昔語りの世界は、ますます豊
かにあざやかです。そして、隣国の人々との「対話」を日本近代の痛苦と共に求め続け
た茨木のり子さんの詩業の意味は、今、大きく私たちの目の前に存在しています。

みなさまのご声援を、心からお願いいたします。

玉懸洋子

*はじめのページ

エミリー・ディキンソン詩

○「欲しくはありません—真珠であろうとも—」

『手紙、葉を添えて』(辻邦生・水村美苗往復書簡集)の辻書簡に、次の一節があります。

彼女(エミリー・ディキンソン)に、「真珠など欲しくはありません／わたしには広い海
があります……／黄金もほしくありません／わたしは鉱山を持つ王子なのです／額
にいつも王冠のある私に／どうしてダイヤが要るでしょう」という詩があります。あ
の素晴らしい詩を書いて彼女は無名を喜んで選びました。

水村書簡はこれを受けて、一葉「にぎりえ」論を展開します。

今日は、飯野友幸氏の新訳を得て、この詩の8行全てを原詩とともに朗読します。

飯野友幸氏は、その著『おれにはアメリカの歌声が聴こえる—草の葉(抄)』(ウォルト・
ホイットマン Walt Whitman 1819~1892 の訳詩集、光文社古典新訳文庫 2007)の解説の
中で、

そもそも、ホイットマンは三十代半ばで処女詩集を出版するまで、叩きあげのジャ
ーナリストであった。街を歩き、人と接し、そこから詩が生まれたのであり、いわば
ストリート系の詩人であった。同時代のアメリカを代表するもうひとりの詩人、エミ
リー・ディキンソンが生涯の多くの時間をマサチューセッツ州のアマーストにある父
親の邸宅の自室にこもって——伝説によれば白い衣服をまといながら——ひたすら
自分のためだけに詩を書いていたのはきわめて対照的だ。

と、エミリー・ディキンソンに触れています。

玉懸洋子

何だろう？この言葉

「天下を望む一葉」から

げんじも もんぜんも =源氏も文選も

源氏物語と、周から梁まで1000年の詩文を集めた中国古典の書

せんぎょうふ =賤業婦 娼婦のこと

しゃふ =車夫 人力車を引く人、車引き

天下を望む一葉

○「天下を望む一葉」

『手紙 葉を添えて』辻邦生・水村美苗（ちくま文庫）より

辻邦生氏と、水村美苗氏の朝日新聞紙上で交わされた(1996年4月から1997年7月まで)往復書簡からの抜粋です。全編、辻氏の滞在する浅間山麓に吹く風のように瑞々しく爽やかで、かつ文学への深い洞察と情熱が語られています。

両氏の話題は西洋の近代小説から日本の剣豪小説に至るまで縦横無尽に広げられ深められます。そうした中で「二人のエミリー」の存在が浮かび上がります。『嵐が丘』のエミリー・ブロンテとエミリー・ディッキンソンの二人です。ディッキンソンはブロンテ同様に終生隠遁し、内なる精神世界を短詩に表現したアメリカの女流詩人です。同じ19世紀に生きた二人の「エミリー」に共通することは、強烈な精神世界を表現しつつも、生前少しも才能が認められず不遇であったことです。そうして日本の樋口なつ子こと「樋口一葉」が連想され、「一葉の描く暗澹とした情念の悲劇」ともいえる作品、『にぎりえ』が登場します。

水村氏には子ども時代をアメリカで過ごし、学校の休み時間に『にぎりえ』を改造社の円本で読んだという体験があります。彼女は、一葉の「哀しいにぎりえの匂いの漂うような文章」に惹かれ、エミリー・ブロンテやディッキンソンと同様に生前不遇でありながらも「目に見えない世界」への「人間の精神の挑戦」を一葉の中に見て理解を深めていきます。そして今、水村氏は、一葉の流れるような文章が現代語訳されるという試みを嘆き、「ますます単一的平坦になる日本語」の行方を深く憂えています。

エミリー・ブロンテの『嵐が丘』(1847年発表)からエミリー・ディッキンソン(1886年没)を経て、樋口一葉の『にぎりえ』(1895年発表)に至るまでの女流文学者の系譜が、二十世紀後半を生きる二人の作家の繊細かつ情熱的な感性を通して鮮やかに私たちに伝えられます。

『にぎりえ』のおりきの「どうしたなら、・・静かな、静かな自分の心も何もぼうつとして物思いのないところへ行かれるであろう、つまらぬ、くだらぬ、これが一生か、一生がこれか」のつぶやきは二人のエミリーの苦悩にも似た一葉自身の孤独な叫びであったのかもしれません。

草野真木子

「矢張り、私も丸木橋をば渡らずはなるまい」と、あきらめの中に悶々とした日を送るお力。女にはあるまじき烈しいものにつき動かされ、「天下を望む」ことと、現実の落差に傷つき、嘆き哀しむお力の中に、一葉の姿が重なります。

情けないとても、誰も哀れと思ってくれる人もなく、下層社会の中で、自分の思いを閉じこめてしまわなければならない、お力やその時代の女性達に女の哀しみをひしひしと感じます。

一葉作品の中でも、特に印象に残る『にぎりえ』のすばらしさを皆様にお伝え出来るよう、心して朗読します。

高橋祥子

『遠野物語』と「私のむかし朗読り」

○『遠野物語』と「私のむかし朗読り」

今年は『遠野物語』発刊 100 周年。明治 43 年 6 月、遠野の言葉で語り継がれてきた話の数々を、柳田國男は擬古文で書き著し、350 部のみの発行だったということです。

この 2 月に急逝した作家立松和平氏は遠野を何度も訪れ、「遠野は私たちの普遍的な故郷だ」と書いていますが、かつて日本のどこにでも見られたであろう光景が『遠野物語』に重なります。そして、100 年後の現代でも、どこか懐かしい思いと共に記憶の扉が叩かれる気がします。

今日は、緊張感溢れる柳田の文体と各地に伝承されている昔がたりをあわせて取り上げてみました。古老たちの土地の言葉で訥々と語られる話を、私たちグループの一人ひとりが声にしていくプロセスで、話者の息づかいや、子や孫に託す、生きていく上での知恵など、祈りのようなものを感じ、朗読者自身、心がときほぐされ、癒されていくという体験も予想外の収穫でした。

眼に見えるものだけでなく、見えないものをも信じ、畏れや憧れを抱き、生きていく上での様々の知恵がぎっしりつまった民間伝承の世界をお楽しみいただけたら幸いです。

田村文字

<出典>

遠野物語「序、29、63、64、111、115」…ちくま日本文学『柳田國男』

洞穴さま…佐々木徳夫『みやぎ昔ばなし 100 選』 本の森刊

ぐひんのおくり物…宮城県教育委員会『宮城県の民話』

天狗のかくれみの…八代市 甲斐癡人再話

『ふるさとの民話 34 熊本県』熊本県の民話 鬼人の首ほか 偕成社

姥捨山…佐々木徳夫『馬方と山姥』 本の森刊

瓜こ姫っこ…聞き取りとテープ起こし田村文字(2000 年 5 月)

むがーし むがし。…こんな言葉ではじまる昔話。温もり、頓知、またなかにはおそろしさを感じます。お楽しみください。

上野美津子

*ちょっと一息

まどみちお百歳の詩

まどさんは誰でもわかることばで 誰もが見過ごしている 命の不思議を 表現し続けている詩人です。

日々の小さな発見から 哲学的な思索までを 平易に語る独特の詩は ずーっと愛され続けることでしょう。

小倉久子



＝午前の部＝

10:30 開演

プ ロ グ ラ ム

*はじめのページ エミリ・ディキンソン詩
「欲しくはありません—真珠であろうとも—」
(日本語訳 飯野友幸)

近江貞子 根子さつき

1 「天下を望む一葉」

辻邦生・水村美苗の往復書簡集『手紙、葉を添えて』(1998)と
樋口一葉・作「にぎりえ」(1895)より

山本敦子 高橋祥子
寺沢由美

2 『遠野物語』と「私のむかし朗読り」

— 柳田國男『遠野物語』(1910年刊行)を記念して —

田村文子 松山美念子
青柳春子 上野美津子
小倉久子 清水美代子
作山牧子 玉懸洋子

—休憩—

*ちょっと一息 まどみちお百歳の詩

— まどみちおさん、1909年の生まれ —

小倉久子 高橋祥子
寺沢由美 玉懸洋子

3 ^{ホン ユンソク} 洪 允淑と茨木のり子<韓日女性詩人の「対話」>

— 言葉と心を通わせる二人の同世代詩人 —

^{ジョン スージン} 田 秀珍 鈴木英子

4 りゅうりえんれんの物語

(茨木のり子詩集『鎮魂歌』1965 所収)

青柳春子 小倉久子
上野美津子 草野眞木子
渋谷東亜子 清水美代子
小梁川玲子

*おわりに 会場のみなさまとともに

=午後の部=

14:00 開演

プログラム

*はじめのページ エミリ・ディキンソン詩
「欲しくはありません—真珠であろうとも—」
(日本語訳 飯野友幸)

近江貞子 根子さつき

1 「天下を望む一葉」

辻邦生・水村美苗の往復書簡集『手紙、葉を添えて』(1998)と
樋口一葉・作「にぎりえ」(1895)より

小梁川玲子 草野眞木子
渋谷東亜子

2 『遠野物語』と「私のむかし朗読り」

— 柳田國男『遠野物語』(1910年刊行)を記念して —

田村文子 松山美念子
青柳春子 上野美津子
小倉久子 清水美代子
作山牧子 玉懸洋子

—休憩—

*ちょっと一息 まどみちお百歳の詩
— まどみちおさん、1909年の生まれ —

小倉久子 高橋祥子
寺沢由美 玉懸洋子

3 ホン ユンスク 洪 允淑と茨木のり子<韓日女性詩人の「対話」>

— 言葉と心を通わせる二人の同世代詩人 —

ミキ キョウラン 篠 蝶蘭 玉懸洋子

4 りゅうりえんれんの物語

(茨木のり子詩集『鎮魂歌』1965 所収)

松山美念子 山本敦子
高橋祥子 寺沢由美
田村文子 作山牧子
玉懸洋子

*おわりに 会場のみなさまとともに

洪允淑と茨木のり子

ホン ユンソク
○洪 允淑 1925 年、平安北道 定州郡 出生

1944 年、京城女子師範学校卒。のちソウル大学、師範大学に進学するも、朝鮮動乱のため中退、以後教師、新聞記者などを経て、20 代から今日にいたるまで詩ひとすじの女性詩人。20 歳ころが日本植民地時代からの解放、引き続く朝鮮戦争と、青春を動乱の中で生き抜いた世代。

(茨木のり子・訳編『韓国現代詩選』花神社 1990 より要約)

生きる法

茨木のり子・訳

ごらんなさい／わたしたちが出発したその日から／
燃えさかる炭火のような山河を素足で歩いてきた／四十年の荒野……
時がくれば松の梢に油をそそぎ／ひとつらなりの松明で道を明るく／
かがやく額で 靴の紐を結ぶ／胸に黄金いろのボタン……
風吹く野に 長い棒竿のように突ったって／一時代の暗さを突きくずすのです
……いたるところでわたしたちの言語は光りそのものでした

○茨木 のり子 1926~2006

いい詩には、ひとの心を解き放ってくれる力があります。

いい詩はまた、生きとし生けるものへの、いとおしみの感情をやさしく誘い出し
てくれます。

どこの国でも詩は、その国のことば花々です。

『詩のころろを読む』の「はじめに」

言葉の野を颯爽と歩み続けた、茨木のり子さん。

茨木さんは、私たちに詩の扉を開いてくれた導き手であり、茨木さんの小さな 2 冊の本『詩のころろを読む』(岩波ジュニア新書 1979)と『うたの心に生きた人々』(ちくま文庫 1994)は、私たちの大事な教科書です。

第一詩集『対話』1955 から第八詩集『倚りかからず』1999 に収められた詩、そして感受性と洞察豊かな文章の数々は、私たちの前に「強く美しい」言葉の世界を開き、「自分の感受性くらい自分で守れ」と、叱咤の声を掛け続けるでしょう。

韓国女性詩人洪 允淑さんとの心の通い合いは、詩「あのひとの棲む国一F・U に一」に暖かく、美しく歌われています。

玉懸洋子



りゅうりえんれんの物語

○りゅうりえんれんの物語

茨木のり子第三詩集『鎮魂歌』(思潮社 1965)所収の長編詩。全 36 連 561 行。

りゅうりえんれん

劉 連 仁 中国のひと / くやみごとがあつて / 知りあいの家に赴くところを
／日本軍に攫^{さら}われた / …… / 昭和十九年 九月 ある朝のこと

と、淡々と歌い始めるこの長い長い詩は、目にして読むも耳にして聴くも恐ろしく辛い「史実」です。(茨木さんが拠った資料は、欧陽文彬著・三好一訳『穴にかくれて十四年』新読書社刊)。

玉懸洋子

作り話でなく、昔話でもなく つい数十年前に日本が中国人に対して行った事実。

目をそむけてはならない真実。

リュウリエンレン

チャオユイラン

シュエンル

劉 連 仁の名とともに、妻の 趙 玉 蘭、息子の 尋 児の名を心に
とめて下さい。 青柳春子

何だろう？この言葉

「りゅうりえんれんの物語」から

かじん ろうむしゃ いにゆうほうしん「華人労務者移入方針」

昭和 17 年(1942)11 月 27 日閣議(東条内閣)で決定した「華人労務者内地移入ニ関スル件」のこと。

日本内地における鉱山、荷役などの労力不足を補うため、この閣議決定に基づき、翌年試験的に、19 年からは本格的に華北より中国人を日本内地に強制連行し、劣悪な条件の下に重労働を課した。連行中国人は北海道の 58 事業場を筆頭に全国 35 社 135 事業場に割り当てられ、石炭採掘、発電所建設など苛酷な労役を強いられた。20 年 6 月には秋田県花岡鉱山鹿島組事業所で中国人が蜂起、鎮圧され多数が虐殺された(花岡事件)。

連行された中国人の内、戦中・戦後に帰国した者は 3 万余名、在日中の死亡者は 6732 名。その一人、劉連仁は、20 年 7 月北海道明治鉱業昭和鉱業所より行方不明、連行から 14 年後の昭和 33 年 2 月、北海道の山中で発見され、賠償請求権を留保して 4 月帰国した。(以上は吉川弘文館『國史大辭典』「中国人強制連行問題」の項<執筆 臼井勝美氏>より要約摘記)

Poem / Emily Dickinson 飯野友幸訳

597 (フランクリン通し番号)

Tis little I—could care for Pearls—	欲しくはありません—真珠であろうとも
Who own the Ample sea—	わたしには大きな海があるから—
Or Brooches— When the Emperor—	ブローチであろうとも—ルビーの付いたのを
With Rubies—pelteth me—	皇帝が—私に投げてくれても—
Or Gold—who am the Prince of Mines	黄金であろうとも—私は金鉱のあるじだから—
Or Diamonds—when have I	ダイヤモンドであろうとも—わたしには
A Diamem to fit a Dome—	大聖堂に似合う王冠が
Conteinual upon me—	いつもあるのだから

亀井俊介編『ディキンソン詩集』 (岩波文庫) 1998

まえがき

エミリー・ディキンソン Emily Dickinson(1830-86) は、アメリカの北東部、ニュー・イングランドの田舎町に生まれ育ち、その外に出ることはめったになかった。人生のなかばからは、家の外に出ることすらなくなってしまった。その詩のうち生前に印刷されたのは 10 篇だけ。それもすべて匿名で詩人としては全く無名だった。

ところが今や彼女がアメリカの生んだ最高の女性詩人であることは、広く認められている。いや、「女性」などという限定をとっぱらっても、彼女がウォルト・ホイットマン Walt Whitman と並んで、アメリカを代表する詩人であることに、異論をはさむ人はほとんどいないだろう。



訳者紹介

Poem 訳 飯野友幸

1955年生まれ。上智大学文学部教授。アメリカ文学専攻。著書に『ジョン・アッシュベリー―「可能性への賛歌」の詩』、訳書に「壁の文学―ポール・オースター全詩集」、『ブルース・ピープル』（ジョーンズ）などがある

ゲスト紹介

Emily 詩朗読

近江貞子さん 東北外国語専門学校講師

根子さつきさん 東北外国語専門学校講師

詩を朗読するのは初めてのこと。どのようにエミリの詩の世界を表現したらよいか、二人で悩みつつ勉強しています。

韓国詩朗読

俞 幟蘭 ユ・キョンラム さん

東北大学大学院教育学研究科において、「移住家族のアイデンティティの形成と家族支援のあり方」をテーマに研究しています。

田 秀珍 ジョン・スージン さん

「ご主人の研究に伴い、5年前に仙台に。二人の女の子のお母さん。日本に来てから日本語を学び、日本語能力検定1級取得のがんばりやさんです。」（田さんの日本語の先生鈴木英子さん談）

鈴木英子さん

外国の方の日本語学習のお手伝いをしています。外国の方から学ぶことの多い日々です。（鈴木さんは、もと、みやびの会会員。久しぶりの朗読出演です。）

みやびの会の歩み

1993年1月 仙台市国際交流協会
「日本語教師ボランティア養成講座」受講の有志により結成、朗読による日本語の響きを勉強する会として発足。

会員数9名

1994年 3月 第1回朗読会
一番町市民センター

1995年 3月 第2回朗読会
一番町市民センター

1996年 9月 第3回朗読会
一番町市民センター

1998年10月 第4回朗読会
“みみをすまして”

仙台市民会館

2000年10月 第5回朗読会
“時代に舞う”

仙台文学館

2002年10月 第6回朗読会
“みやびに朗読十春秋”

仙台文学館

2004年11月 第7回朗読会
“言の葉 時空を超えて”

仙台文学館

2006年11月 第8回朗読会
“恋の歌 志の歌”

仙台文学館

2008年11月 第9回朗読会
“もみじの葉を添えて”

戦災復興記念館

17年目のみやび

1993年1月みやびの会が発足して今年で17年目。みやびの会の単独発表会は10回目を数えることになりました。

みなさまの途切れることのない暖かいご支援があったればこそと感謝いたしております。

これまでのプログラムを繰ってみながら古今東西のすぐれた作品をみな様と共に味わう時間を持てたことを、うれしく思います。

これからどうぞよろしくお願いいたします。

代表 青柳春子

◆画…渋谷 東亜子 ◆花…上野 美耕(美津子) ◆プログラム…長久保 明美